

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470501392		
法人名	合資会社三重福祉会		
事業所名	安東苑		
所在地	津市安東町2004		
自己評価作成日	令和5年7月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&liqvosyoCd=2470501392-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「人生の半分は自分の為、後の半分は（社会）の為に」の理念のもと、安東苑のモットー「笑う門には福来る」を目標に入居者様、職員がいつも笑顔であるように、また職員の離職率も低く安定した介護を提供出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

高速道路の津インターの西に位置する事業所は、幹線道路から少し離れた静かで緑豊かな環境にある。今年9月で開設20周年を迎える。ここ何年かで開設当初から長く入居していた利用者や相次いで看取っている。職員は常に笑みを絶やさず明るい表情で利用者へ寄り添う姿勢ができており、かつ職員間の雰囲気も良いことから異動がほとんど無いことが自慢である。今年度コロナ感染のクラスターが出なかった時にも、感染対策をしっかりと取りながらも辛い表情やピリピリした態度はとらず、何事も笑いに変えるという姿勢で乗り切ることができた。モットーである「笑う門には福来る」をしっかりと実践に結び付け、利用者や職員の表情は明るい。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員の目に付く所へ数か所提示している。副理念の笑う門には福来るも心にとめ笑顔が見れる職場を心掛けている。	利用者や職員の似顔絵に楽しいイラストが施され、事業所の笑いの多い雰囲気がみられる。辛い時もあちらこちらに掲示してある理念を実践に結び付けるようお互いに励まし合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの関係で最近の地域交流は難しいが、地域のゴミ掃除当番には職員、利用者で参加している。	コロナ禍で地域交流はできていないが、今年度久々の地域ケア会議に出席することができ、これからが期待される。長年の地域への周知活動のお陰で、近所から採りたての野菜が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方の受け入れ。防災コーディネーター・カット 運営推進会議への参加を通じて理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しているがコロナの影響でR4年度は1月、3月、7月と中止している。会議での意見は職員全員で共有しより良い介護に向け努力している。	2か月毎に開催してきたが、コロナ禍で会議ができない月には参加予定者に事業所の実践状況を報告し、意見をもらい運営に反映させている。	運営推進会議は、事業所の取り組みを知ってもらい参加者から意見をもらう絶好の機会である。今後は家族を含め幅広い分野に参加の声掛けをし、実りある会議にされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、協力関係を築くようにしている。現在、生活保護の方が2名おられる。	生活保護受給者が複数人いるため、市の担当者とは電話で連絡を取ったり、来苑されることもあり、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言をしている。日々の申し送りで職員全員で共有し3ヶ月に1回身体拘束・虐待防止会議を開催している。門は安全性を考え施錠しているが玄関の施錠はせず自由に出入りできる。	玄関に『身体拘束廃止宣言』を掲げ、3か月毎に身体拘束・虐待防止会議と研修を行っている。毎月の検討会でも特異な事例があれば職員全員で検討し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の介護の中で無意識的なものも含め虐待になっていないか自己チェックや職員の間で意見を交換して虐待が見過ごされないよう、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在2名利用されている。今後の活用もふまえて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を用いて読み上げながら十分な説明を行い職員も利用者や家族から質問があった時は答えられる様、疑問点は調べるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見、要望を出せるような雰囲気づくりを心掛けている。日々の会話の中でも見出している。玄関に意見箱を設置している。	コロナ禍で面会を中止した期間もあったが、現在は他の利用者から離れた場所で15分程度の面会を許可している。長い付き合いの家族が多く、気さくに何でも話せ、意見を聞きとる環境づくりができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は月1回の検討会で代表者や管理者に伝えている。日常の仕事の中でも随時出しやすい雰囲気を作り心掛けている。	職員の意見は、日常の仕事の合間や申し送り時、検討会で聴くことができる。内容によっては苑長が毎月の代表者会議や、急を要する場合はメールで上部に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に取り組んでいる	職員の状況を考慮しシフト作成時に個々の希望を取り入れている。賞与時に職員の自己評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料を提示し研修を受ける機会や声掛けを行っている（リモート研修も含む）研修後は研修内容を共有出来るように報告の機会を持つようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組み	グループ内の代表者で会議を行っている。インターネットで施設の取り組みを見て参考にできるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人、家族と面談し病院、施設からの情報を元に要望、不安を聞き取り傾聴と状況把握に務めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約までに見学、面談を行い家族の不安や要望を話し合いより良い方向を探していくよう心掛けている。入居後は面会時や電話などで本人様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方の見学、問い合わせは随時受け付けている、希望者にはパンフレット等も送付し申し込みや契約以前の段階でその方に合った支援、サービスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での会話や表情などで利用者の意見、要望に応じられるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの関係で面会も制限させて頂いていたが電話で状況を伝え定期的にスナップいりの季刊誌を発行して個々の近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は家族以外の方の面会も歓迎していたが暫く制限させて頂いている。	現在、ハアーカットは、美容学校の生徒にお願いしている。若い人との触れ合いも楽しみである。日々の生活の中で若かった頃の話を引き出してカルテに書き入れ共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が安心して関わり合えるように時に見守ったり、間に入って話題を提供したり、食事席も考慮しより良い関係性ができるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族から野菜や花、施設で使えるようなものを届けて下さる。サービス終了後の家族が職員として働いている。以前の関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情などをカルテに書き毎日の申し送り時や月1回のケア会議で意見交換し共有している。	思いを言葉に出せない利用者については表情から汲み取り、質問も返答しやすいように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を元に生活環境や人生経験の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重して本人の生活リズムに合わせた生活が出来るように支援している。現状と状態変化も把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の思い、家族の意向などを職員で話し合い介護計画作成に反映している。担当者を中心としたケア会議を行い課題やより良い介護の在り方を検討しケアプランを作成している。	職員は、担当した利用者について毎日目標に対する評価をチェックし、毎月のケア会議では文書にまとめて発表し全員で検討している。利用者にとって最適なプランを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、カルテを活用して本人の状態、思いを職員で共有している。利用者を担当する職員を決め担当者が分析、統括してケア会議の資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて家族に連絡し家族の負担になる時は受診対応など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練、水害避難、救急法などを行い安全に暮らして行ける支援をしている。理容などボランティアの方もコロナで制限されていたが6月より再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医を受診されたり、協力医の往診が2週間に1回ある。協力医の連携は密で緊急時にも気軽に対応してもらっている。	現在1名を除いて全員が協力医を主治医としている。主治医の月2回の検診と訪問看護師による毎週の健康観察、それに加え副院長が看護師資格を持っていることも安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1名の看護師、週1回訪問看護による健康観察があり個々の利用者の状態を把握し相談、支援してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	家族への連絡、病院付き添い、サマリにて入院に至るまでの経過や薬の情報提供、入院中は病院と連絡をとり本人の状態と、退院の見通しを把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人、家族の意向を同意書にそって説明、確認している。主治医と連携をとりながら出来るだけ不安、苦痛のない最後を迎えられるように取り組んでいる。	入居時に本人・家族に終末期について説明し意向を確認しているが、実際にADLが低下し食事が摂れなくなるなど終末期を迎えた時に家族の思いを再確認し、看取りに取り組んでいる。スタッフは誰もがスムーズに緊急の対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の防災コーディネーターの方に来て頂き定期的に救命救急方の訓練を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと避難訓練、消火器使用方法、職員の緊急連絡網にて災害時を想定して訓練している。運営推進会議にて自治会長より緊急時の協力も確約して頂いている。	年2回の災害避難訓練を実施している。近くに流れる安濃川の上流にはダムがあるため、大雨による水害が危惧される。備蓄の用意はあり、自治会長とは災害時の相互協力を確認している。	最近の異常気象でいつ災害に見舞われるかわからない。防災マニュアルはあるが、災害時に素早く行動ができるように具体的な対応方法を検討し目に付く場所に掲示されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながらも人生の先輩として敬い排泄時の声掛けは、耳元で足元にはバスタオル、衣類汚染する利用者にはエプロンも工夫している。	利用者は人生の先輩であるという意識を忘れずに、呼称は本人の希望する呼び方を選んでいる。居室に入る時には必ずノックを忘れず、排泄の失敗も上手くはぐらかし、自尊心を傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話や表情から思いや、希望を引き出してできるだけ自己決定ができるように働きかけ、難しい場合は選択肢を決定しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって生活できるよう、スタッフの間で工夫しながら一人ひとりのペースを大切にしている。居室にテレビを設置している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪、髭が伸びていないか気を配りメイクやマニキュアも女性入居者には喜ばれている。旭美容学校カットも受け入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じ物を食べ利用者の希望でメニューを変更する時もある。	業者作成の献立に沿った材料が届き、専門の調理人が昼・夜の調理を担当している。特別に他のメニューに変えたい時には変更可能である。桜餅やおはぎなどの手作りおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は栄養管理された業者より届き各人に合わせて粥、刻み、ミキサー食などの形態で提供し必要な栄養が確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け、必要な場合は本人が磨いた後の仕上げ磨きもしている現在義歯の方はいないが義歯の方は就寝前に義歯洗浄剤につけていた。すぐ近くに歯科医院があり気軽に受診もできる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指して、個人の排泄記録に応じてそれぞれ声掛けして見守っている、夜間必要な利用者にはポータブルトイレを準備している。	現在全員がリハビリパンツを利用し、トイレでの排泄をめざしている。尿意の無い利用者は食事前や本人の排泄パターンに沿って声掛けしてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の日時を記録してパターンを知ると共に水分摂取を心掛けたり主治医と相談してその方に合った便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低限、週3回を基本として、一般浴、リフト浴を使い分け安全に入浴してもらるように支援している。入浴チェック表を活用して日を変えて全員入浴できるように心掛けている。	基本的に月・水・金の午前中に入浴支援をしている。約8割の利用者がリフトのある浴槽を利用し、安心して入浴ができている。入浴剤や季節の柚子湯や菖蒲湯も楽しみの一つである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温、換気に気を配っている。就寝、起床時間も柔軟に対応している。本人希望により主治医と相談して眠前薬服用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用して薬が変更になったり、臨時薬が出た場合、服用後カルテ記載し何かあれば主治医と相談して本人の状態を見ながら適宜に必要な性を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じて洗濯たみ等無理のない範囲で役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑内での歩行は自立していても外出時は車椅子使用の方が増えコロナの影響で外出は自粛しているが菜園を作ったり、希望者は外気浴を楽しんでいる。	コロナ禍で外出は控えているが、近所の桜の名所にはドライブを兼ねて出掛けることができた。気候のよい時には、近くの公園まで散歩したり、敷地内の園庭の花を見たりしながら日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理しているがこずかい程度の金銭管理をしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑の電話を利用して頂いているが、携帯電話を持ち利用している方もいる。年賀状、手紙のやり取りが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温を調整し換気にも気を配り、居心地の良い空間を心掛けている。利用者は自由にユニット間を往来し居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	ユニット間がオープンで、両方の利用者が好きな時に好きな場所に移動することができ、閉塞感が無い。大きめのソファが置かれ、くつろげる場所が多い。廊下やリビングの壁には利用者・職員の楽しい手作り作品が所狭しと飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席はほぼ決まっているがそれ以外は自室でパズルをしたり、塗り絵をしたり、気の合う人とおしゃべりしたり、テレビを見たり自由に過ごせるように随所にソファ等置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族の写真などを飾り居室の清掃、整理整頓に努めて居心地の良い空間を作るようにしている。	居室にはベット・エアコン・クローゼットが整備されている。その他には思い入れのある家具や暖簾などがあり一人ひとり個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室などには手すりを取り付け、通路にはよけいなものを置かず、机や椅子の配置にも気を配っている。		